

平成 28 年 3 月 30 日

釜石市議会議長 佐々木義昭様

釜石市議会 海盛会
代表者 海老原正人



会派視察調査報告書

当会派所属議員（海老原正人、合田良雄、赤崎光男、古川愛明、後藤文雄）による視察調査を、平成 28 年 3 月 28 日および 29 日、八戸市で下記のとおり実施しましたので、報告致します。

1、視察項目： 八戸 LNG ターミナルについて

日 時：平成 28 年 3 月 28 日 午後 1 時～2 時 30 分
参加者：海老原正人 合田良雄 赤崎光男 古川愛明 後藤文雄
相手方：JX エネルギー株式会社八戸 PJ 担当アシスタントマネージャー
加藤智
JX エルエヌジーサービス業務課 日當竜一
場 所：八戸市豊洲 八戸 LNG ターミナル

研修内容：

① 視察先に選んだ理由

釜石市における LNG ターミナル立地の可能性を探るため。

② 八戸 LNG ターミナルの概要

八戸 LNG ターミナルは、東北地方最大級の LNG 輸入・供給基地である。貯蔵量 14 万キロリットルの LNG タンク 2 基、大型 LNG 外航船の着棧、国内最大級のローリー出荷設備を供えている。2015 年 4 月から運用開始された。それ以前は、2007 年に LNG の 2 次基地として運用が開始されていた。

③ 視察経過

はじめに事務所にて八戸 LNG ターミナルの概要説明を受ける。その後、社用車に乗り込み施設全体を案内して頂く。



所 感：

所感については、今回は LNG 基地の立地可能性を探ることが目的であったので、火力発電所や八戸市役所での説明を通して、一括して後ほど記す。

2、視察項目： 東北電力八戸火力発電所ならびに八戸太陽光発電所について

日 時：平成 28 年 3 月 28 日 午後 2 時 30 分～4 時

参加者：海老原正人 合田良雄 赤崎光男 古川愛明 後藤文雄

相手方：八戸火力発電所 所長 塚本俊朗 副所長 小笠原修一

副所長 安藤郁生 課長 向駒木敦

場 所：八戸市大字河原木の八戸火力発電所ならびに八戸太陽光発電所

研修内容：

① 視察先に選んだ理由

LNG を燃料とし、熱効率がよく、環境への負荷が少ない最新式の火力発電所を知るため。また、太陽光発電の立地の意義等について学ぶため。

② 八戸火力発電所ならびに八戸太陽光発電所の概要について

八戸火力発電所は、昭和 33 年に石炭を燃料に営業運転が開始されていたが、当初の 1 号機および 2 号機は老朽化により昭和 57 年に廃止され、現在は、重油を燃料とする 25 万キロワットの出力の 3 号機と LNG を燃料としコンバインドリサイクル方式により熱効率が 57% 極めて高い 5 号機 (41 万キロワット) により営業運転が行われている。

八戸太陽光発電所は、石炭火力発電所から出る飛灰等を埋め立てた最終処分場を活用する目的でつくられたもので、東京ドーム 1 個分の敷地 (約 5 万㎡) におよそ 1 万枚の太陽電池モジュールを敷きつめ、年間約 160 万 kwh の発電をしている。これは一般家庭約 500 世帯分の年間消費電力に相当するとのこと。

③ 視察経過

東北電力八戸火力発電所の事務所にて、塚本所長等から八戸火力発電所について説明を受ける。その後、発電施設を間近まで行って見て廻る。火力発電所の視察が終わった後、近くにある八戸太陽光発電所へ移り、現地で簡単に説明を受け施設を見て廻る。

3、視察項目： LNG 事業に対する行政の取り組みについて

日 時：平成 28 年 3 月 29 日 午前 9 時 30 分～ 11 時まで

参加者：海老原正人 合田良雄 赤崎光男 古川愛明 後藤文雄

相手方：八戸市議会事務局次長 栄田千鶴子

議会事務局庶務課主幹 若宮正則

議会事務局庶務課主査 上野千穂

産業振興課主幹 大沢拓也 産業振興課主幹 市川国昭

場 所：八戸市議会会議室

研修内容：

① 視察先に選んだ理由

LNG 事業誘致を行政として選んだ理由等について知るため。

② 八戸市の概要

人口約 236000 人、工業出荷額 4900 億円あまりと、北東北では有数の工業都市であり、八戸工業大学や八戸学院大学、八戸高専、さらには情報系の各種専門学校と教育機関も充実している文化都市でもある。また、全国で 6 位を誇る水揚げ高のある漁港をはじめ、コンテナ貨物の取扱量も 58000TEU と釜石の優に 10 倍以上の取扱量を有する港湾都市でもある。

③ 視察経過

八戸市議会の会議室にて、栄田事務局長の歓迎の挨拶後、産業振興課主幹の大沢氏と市川氏から八戸市の LNG 事業に対する取り組みについて説明を受ける。

所 感：

釜石では東日本大震災以前から LNG 基地誘致の考えは見られ、特にも平成 30 年には三陸縦貫道路、横断道路がそれぞれ復興道路、復興支援道路として供用開始の予定となり、それらの結節点である釜石は物流拠点都市としての可能性が高まり、北上市を中心とする内陸工業地帯との一層の連携の高まりが見込めることから、港湾を活用して LNG 基地を誘致する動きも出はじめている。

ただ、この LNG 基地に関しては、多額の初期投資の必要性や漁業関係者との調整の必要性等を考えると、決して容易ではないことが想像され、それ故事

業の可能性を探るべく実際の施設の見学に赴いたところである。

視察の結論から言えば、甚だ難しそうであると言うことである。八戸市の場合、タイミングや様々な条件に恵まれたことが、今回の説明の主眼であった。北東北のLNG化が遅れていたこと。八戸湾に流れ込む馬淵川にはダムがなく、土砂が八戸湾内に大量に流れ込むため、浚渫した砂等を処分した場所にポートアイランドがつくられ、そこが空いていたためJXの企業進出に丁度良かったこと。また、湾内では養殖施設等がほとんどなく、漁業と港湾の活用区分が比較的行いやすかったこと。東日本大震災における被害・影響等も少なく、多少嵩上げすることで対応できたので、震災後すぐに工事に着工できたこと。平成15、16年頃からJXと市が一緒になり、漁民や市民に対する説明会等を何度もくり返し、その中からJXと市の信頼関係が築かれ、最終的に1次基地の建設に結びついたこと。さらに、最初の2次基地建設に関わったJXの社員がその後も社内で社長や役員に昇格し、密な関係性を維持できたことなど、様々な要因が上手く作用したとのことであった。

輸入基地となる1次基地としては、500億円以上の投資が必要となるとのことであったが、釧路に見られるような2次基地にしても100億円ぐらいの投資は必要となるとのことであった。また、この2次基地にしても、最低でも10000㎡程度の土地が必要になるとのことであったが、現在の釜石では土地にしても初期投資にしてもなかなか見込みにくいのが現状ではないだろうか。

また、市内でLNG事業を推進する者は、漁業者との調整を簡単に捉えているように思われるが、漁業の後継者不足がこのまま進展し、大きく漁業が衰退するようなことでもなければ、平田埋め立て地を活用しての基地の導入なども当然大きな困難が予想される。

現在、重油ボイラーからLNGボイラーへの転換には、環境省と経産省からそれぞれ環境負荷の軽減や経済効率の推進の目的から補助金があるとのことで、これらを活用しながら市内企業のLNG化を図り、まずは道路網を活用してタンクローリーによる輸送で安定的な需要の地盤を作り、その先にさらなる展望が見えるようであれば、船を用いての基地の建設などが見えて来るのでは、とのアドバイスがあり、大いに納得した次第である。

いずれにしても、10年程度のスパンでは可能性を見いだすことが難しい事業のように思慮される場所である。

八戸火力発電所については、燃料がLNGであるため、LNGターミナルの最大の需要家であり、このような発電所がなければLNGの1次基地化も現実的

にはなかなか難しいとのことである。

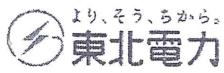
また、説明によると、産業用は除くとして、この火力発電所1基で青森県の大方の世帯電力を賄うことが可能とのことである。そうすれば、全国的には、高レベル放射性廃棄物の処理場が無いなかで再び原子力発電の再起動が行われつつあるが、原子力発電を一定程度見込むことが本当に日本の将来にとってベストミックスの選択となり得るのか、大いに疑問の湧くところである。

震災後、原子力発電が無いなかで日本の経済や産業がそれなりに廻ったように、原子力無しでもやっていくことの可能性があるように思えて成らない。そもそもこのようなことがあまり世間に知られるようなことが無いので、あまり議論にもならないのではないのか。将来に禍根を残すことの無いように、慎重な対応が求められると思うところである。

(海老原記す)



(八戸 LNG ターミナルにて)



八戸火力発電所

所長 塚本 俊朗

東北電力株式会社
〒039-1161 八戸市大字河原木字宇兵工河原1番1
TEL.0178-43-4331(代表)
FAX.0178-43-6125
E-mail: tsukamoto.toshio.nm@tohoku-epco.co.jp
ホームページ:http://www.tohoku-epco.co.jp/



八戸火力発電所

副所長 小笠原 修一

東北電力株式会社
〒039-1161 八戸市大字河原木字宇兵工河原1番1
TEL.0178-43-4331(代表) TEL. 0178-81-6303(直通)
FAX.0178-43-6125
E-mail: ogasawara.shuichi.rd@tohoku-epco.co.jp
ホームページ:http://www.tohoku-epco.co.jp/



八戸火力発電所

副所長 安藤 郁生

東北電力株式会社
〒039-1161 八戸市大字河原木字宇兵工河原1番1
TEL.0178-43-4331(代表) TEL. 0178-81-6304(直通)
FAX.0178-43-6125
E-mail: ando.ikuo.wh@tohoku-epco.co.jp
ホームページ:http://www.tohoku-epco.co.jp/



八戸火力発電所(総務)

課長 向駒木 敦

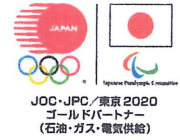
東北電力株式会社
〒039-1161 八戸市大字河原木字宇兵工河原1番1
TEL.0178-43-4331(代表) TEL. 0178-81-6306(直通)
FAX.0178-43-6125
E-mail: mukaikomagi.atsushi.uc@tohoku-epco.co.jp
ホームページ:http://www.tohoku-epco.co.jp/



エネルギー・資源・素材のXを。
JXエネルギー株式会社

リソーシズ&パワーカンパニー
ガス事業部 天然ガス販売グループ
八戸PJ担当アシスタントマネージャー (八戸駐在)
加藤 智

〒039-1162 青森県八戸市豊洲7番地2
TEL (0178)32-0122(直通) FAX (0178)32-0123
TEL (090)8491-0308
E-mail: katou.satoshi@jxgr.com
www.no.e.jx-group.co.jp



エネルギー・資源・素材のXを。
JXエルエヌジーサービス株式会社

業務部
業務課

日當 竜一

〒039-1162 青森県八戸市豊洲7番地2
TEL (0178)32-0158 FAX (0178)32-0123
E-mail: hiatari.ryuuichi@jxgr.com
http://www.lng.jx-group.co.jp



事務局次長
兼庶務課長

栄田千鶴子

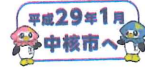
八戸市議会事務局
(八戸地域広域市町村圏事務組合
議会事務局次長兼庶務課長)

〒031-8686

TEL(0177) 四三二二二一
内線 六五二〇



青森県八戸市議会事務局
庶務課 庶務グループ

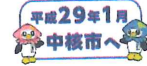


主幹 若宮正則

〒031-8686 青森県八戸市内丸一丁目1番1号
TEL 0178-43-2145 (直通)
FAX 0178-47-0744
E-Mail gikaisho@city.hachinohe.aomori.jp



八戸市議会事務局
庶務課



主査 上野千穂

Kazuho Uwano

〒031-8686 青森県八戸市内丸1-1-1
Tel 0178-43-2145(直通) Fax 0178-47-0744
E-mail kaz_uwano@city.hachinohe.aomori.jp
URL <http://www.city.hachinohe.aomori.jp>



八戸港全景

八戸市
商工労働部
産業振興課

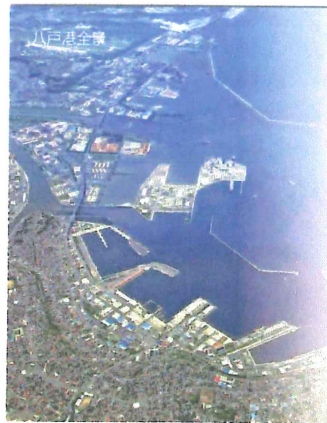
主幹

市川国昭

Kuniaki Ichikawa



〒031-8686 青森県八戸市内丸1-1-1
Phone: 代表(0178)43-2111 (内) 523
直通(0178)43-9048
F A X:(0178)43-2256
E-mail:k_ichikawa@city.hachinohe.aomori.jp



八戸港全景

八戸市
商工労働部産業振興課

企業誘致推進グループリーダー
主幹

大沢拓也

Takuya Osawa

〒031-8686 青森県八戸市内丸1-1-1
Phone: 代表(0178)43-2111 (内)3854
直通(0178)43-9048
F A X:(0178)43-2256
E-mail:tak_osawa@city.hachinohe.aomori.jp
<http://www.city.hachinohe.aomori.jp/>